

# 第27回自治体にはたらく青年のつどい

## 80人の青年が憲法改悪を先取りする動きを学び、博多駅前で街頭宣伝活動！

6月9日（土）～10日（日）の2日間、「第27回自治体にはたらく青年のつどい」を福岡市で開催しました。

憲法改悪の先取りともいえる「国民保護法」は、有事関連法のなかでただひとつ、すべての地方自治体、地域、住民に直接関わる法律で、「国民保護計画」と「訓練」などにより「平時」から有事に対応する議会の仕組みをつくる法律です。また、国の「基本方針」にもとづき作成することになっているため、国→都道府県→市町村という上意下達で決められ、一番大変な現場での措置は、自治体（とりわけ市町村）の責任で行う仕組みになっています。06年度までに1700を超える自治体で計画が策定されており、今後、「平時」から自衛隊なども加わって上意下達の指示で訓練が重ねられることとなります。

今回のつどいは、こうした国民を戦争にまきこむ「国民保護」の問題に対し、住民が平和に暮らせる地域をめざすための自治体のあり方を考えるとともに労働組合の実践活動を行うことを目的として開催し、16地方組織から75名が参加しました。

講演では、田中副委員長から「憲法改悪を先取りする動きと私たちのとりくみ～国民保護計画や国民投票法などを中心に考えながら～」と題した話を聞き、国民保護法や憲法改定国民投票法と憲法改定をめぐる新しい動きについて学習しました。

また、自治労連共済事務局の大曾根書記から「自治労連共済」と「民間の保険」との違いが話され、組合自主共済のはじまりや、自治労連共済の優位性を学びました。

### 80人の参加で、憲法9条を守り・生かそうと訴える～博多駅前宣伝行動

その後、全国でとりくまれている「9の日宣伝」に連帯して、「つどい」では初となる街頭宣伝行動を博多駅前で行いました。

「憲法改悪に反対し、第9条を守り、平和のために生かすことを求める」署名とチラシ・ポケットティッシュの配布、4種類のシール投票を行いました。大変反応が良く、署名も進み、チラシもティッシュも多くの方が受け取ってくれました。



チラシもティッシュも多くの方が受け取ってくれました。

1時間の行動で、署名を76筆集約し300人近い市民がシール投票に参加しました。

シール投票では、圧倒的多数が「憲法9条を変えて戦争する国は嫌だ」「憲法9条は平和に役立っている」「国民保護計画をみたことがない」「米軍基地はいらない」と答える結果となりました。

また、用意した1200個のポケットティッシュはほぼ配ることができました。

青年自らが行動したためなのか、道行く青年の平和に関する意識が高いのか、署名やシール投票も学生などの多くの若い人たちが協力してくれました。

青年の平和に関する意識が高いのか、署名やシール投票も学生などの多くの若い人たちが協力してくれました。

### 国民保護計画、平和や憲法に対する熱い思いやフィールドワークの感想を交流

2 日目には参加者がそれぞれの自治体の国民保護計画（案を含む）を持ち寄って分散会をおこないました。つどい参加に向けて事前に学習会をとりくんだ岡山県本部の参加者からは、「国民保護とは名ばかりの、自衛隊が活動しやすくするためのものだということが分かった」と報告されたり、「読むほどに、自治体の役割を必要としていない計画ではないか」「（各自治体で担当部署の職員以外に計画がほとんど知らされないことに関わって）本質を知られると具合が悪いから職員や住民に積極的に知らせないのではないか。“どうせ実行されない”ではなく、もし憲法が改悪された後、いざというときには内容を問わず計画が策定されていることだけを根拠として、国から自治体・住民が一方的に指示・動員される危険があることを認識する必要があるのではないか。」「徹底した外交努力をしないで武力事態を想定するのは本末転倒だ。」など、本質に迫る議論が展開されました。

また、それぞれの参加者が、平和や憲法に対する熱い思いやフィールドワークの感想、さらに日頃の青年部活動への思い・悩みを交流することができました。ある分散会では、住民の国の政治に対する不満は自治体の窓口寄せられるもので、自らの働きがいも重ねて、7月の参議院選挙では今の政治を変えるために1票を投じたり選挙に参加することが大事だと話し合われました。

2日間を通じて、「憲法改悪や国民保護計画のことはもっと広く知らせる必要があるし、私たちの行動決して無駄ではない」ということと、行動したことによって結果が出ることを確信したつどいとなりました。



### 参加者の主な感想

- ・講演は、現在の情勢をふまえての憲法改悪・国民保護計画の説明でわかりやすかった。
- ・街頭に立ってのビラを配ったりするのは、あまり経験がなかったので、はずかしかったけどやり始めて、人の反応を見ていると少し楽しい気持ちになった。いい経験ができたと思います。
- ・あらためて自治労連共済の優位性や組合の団結の原点となっていることを学べた。

